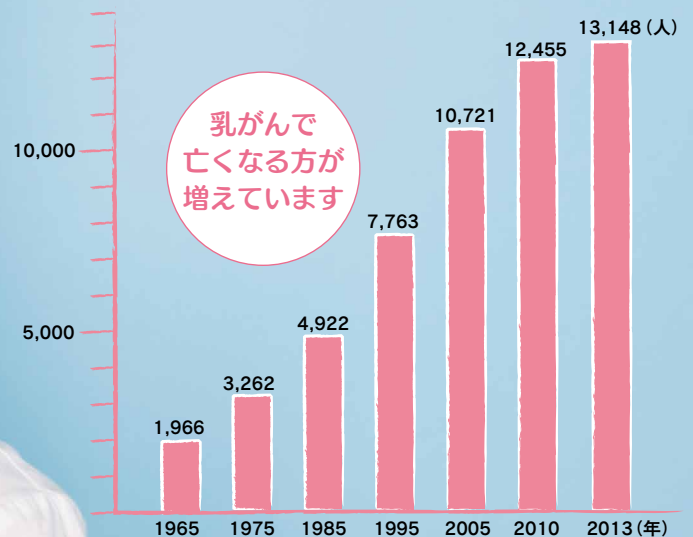


受けて
いますか？

乳がん検診 子宮頸がん検診

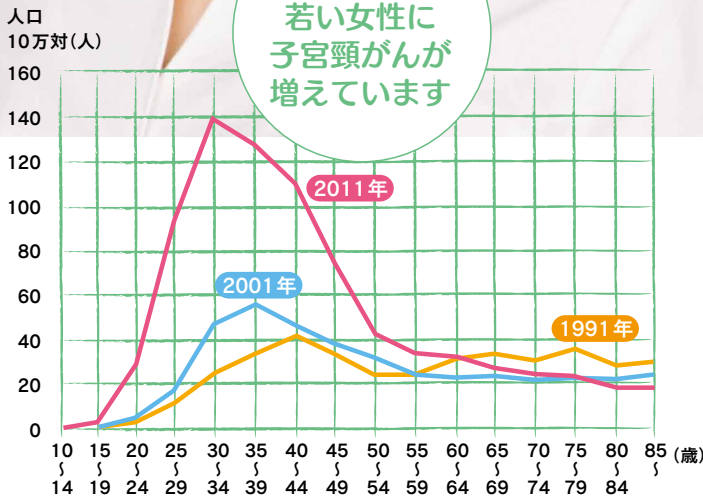


「乳がん」「子宮頸がん」が増加を続けています。日本人女性の検診受診率は欧米に比べて低く、見つかったときにはすでに進行してしまっているケースも多いのです。定期的な検診で、早期に発見することが大切です。



乳がんで
亡くなる方が
増えています

20~30代の
若い女性に
子宮頸がんが
増えています



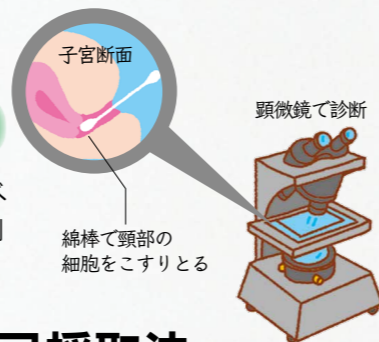
「もっと早く
見つかったら…」
と後悔しないために、
ぜひ検診を
受けてください

●子宮頸がん(上皮内がん含む)年齢階級別推定罹患率(全国推計値)
国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス
「地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年~2011年)」

子宮頸がん検診って どんな検査？

子宮頸部細胞診

子宮頸部の表面から綿棒でこすりとった細胞を、顕微鏡で調べて、がんを発見します。医師が目を確認しながら行う「医師採取法」と、自分で検診キットを使って行う「自己採取法」があります。



医師採取法

内診台を使って、医師が子宮頸部の位置を目で確認しながら、綿棒で細胞を採取します。子宮頸がんが起りやすい場所の細胞を正確に採取できるため、検査の信頼性はとても高いです。

自己採取法

トイレなどで、自分で検診キットを使って行います。内診台に乗らないで済むので、気楽にできるのがメリット。しかし、子宮頸がんが起りやすい場所の細胞を、正確に採取できる確率は、非常に低いのが現実です。

とても
効果が高い
「子宮頸がん検診」

子宮頸がん検診は、受診者の約1%が「要精密検査」となり、精密検査となった人の約10%弱という高い確率でがんが発見されます。発見されたがんは、ごく早期のがんであることが多く、大半が子宮を残したままで治療が可能です*。

*国立がんセンターがん対策情報センターホームページより

Q 若い人のほうが
子宮頸がんになりやすいの？

A

20～30代の若い世代で急増しているのは事実です。子宮頸がんはウイルス感染が主な原因で、セックスの経験があれば誰にでも可能性があります。若い世代に多いのは、性体験の低年齢化と、若い世代の検診受診率が低いと考えられています。

Q 自己採取法では
ダメなの？

A

ダメではありませんが、信頼性はかなり落ちます。人によっては子宮頸部の位置が奥まっていることもあり、医師でも正確に採取するのに苦労するとか。どうしても内診台がイヤなので自己採取で、という方は、検査キットの案内書をよく読んで、できるだけ正確に採取するようにしてください。

Q 自覚症状がでた
ときに調べればよいのでは？

A

子宮頸がんの初期には症状はまったくなく、まれに性交時に不正出血がある程度です。下腹部痛・腰痛などの症状がでたときには、すでに進行してしまっています。20歳以上の女性は、定期的な検診が大切です。



若い世代？



どちら？
正確



定期的な
検診を！

●子宮頸がん検診は、月経時を避けて受けましょう●

乳がん検診って どんな検査？

乳がん検診には
2通りの
検査方法が
あります

1 マンモグラフィ検査



乳房を板のような装置にはさんで圧迫し、レントゲン撮影します。ごく小さながんや、石灰化（カルシウムが沈着したもので、悪性の場合もある）を見つけることができます。

2 超音波検査



乳房にジェルを塗り、プローブという器具を当てて、モニター画面を見ながら、がんを発見します。検査時の痛みはありません。

Q マンモグラフィと
超音波、
どっちがいいの？

いずれの検査でも、
医師による視触診が
併せて行われます。

A マンモグラフィと超音波には、それぞれ長所・短所があります。

マンモグラフィ検査

- ごく小さいがんや石灰化を発見できる
- しこりを作らないタイプのがんを発見できる

- 20～40代は乳腺組織の密度が濃く、真っ白に写ってしまい判読がむずかしいことがある。
- 多少の痛みがある。

超音波検査

- しこりの内部構造まで見ることができる
- 乳腺組織の密度が濃い若い世代に向く
- 妊娠中でも受けられる

- ごく小さいしこりや石灰化の発見には向かない
- しこりを作らないタイプのがんの発見には向かない

いずれも万能ではなく、超音波でしか見つからないタイプのがん、マンモグラフィでしか見つからないタイプのがんもあるため、両方受けるのが理想的です。年齢によって、30～39歳は超音波、40～49歳はマンモグラフィと超音波を1年ごとに交互に、50歳以上はマンモグラフィ、という方針を打ち出している都道府県もあります。ご自分の年齢や、これまでの受診歴によってお選びください。

Q マンモグラフィは
痛いって聞くけど…？

大丈夫！

A 乳房を板ではさみ、薄くした状態でX線撮影するため、多少の痛みはありますが、実際に受けてみたらそれほどではなかった、という方が多いです。乳房が張っている月経前は痛みが強くなりやすいので避けましょう。また、経験豊富な施設であれば検査技師の手際がよく、短時間で終わり、痛みを感じにくいでしょう。痛みをこわがって検査を受けず、がんの発見が遅れてしまつては本末転倒です。必要性を理解して、ぜひ検査を受けてください。



乳がんをもっと知ろう

年に7.2万人*がかかり、1.3万人が死亡。
日本人女性に急増しています。

※上皮内がんを含むと8.1万人といわれています。

■ なりやすい年齢は…

30歳代から増加し、40歳代・50歳代がピークです。

■ 早期発見のために、「月1回の自己チェック」と「年1回の乳がん検診」を

乳がんは、早期（I期:2cm以下でリンパ節転移のないもの）であれば約90%が治る病気です。「月1回の自己チェック」と「年1回の乳がん検診」を続けていきましょう。

月1回の自己チェックのしかた

- 月経の終わったあとの乳房が張っていない時期に行います。
- しこりや異常に気づいたら「乳腺外科」へ。

1 浴室で

調べる乳房の反対側の手指をそろえ、指の腹で軽く押すようにすべらせ、しこりがないか調べます。乳がんがしやすい位置は念入りに。



2 鏡の前で

腕を上げて、ひきつれ・くぼみ・輪郭の変化、乳頭のへこみ・湿疹はないか、乳首をつまんだとき出血がないか観察します。



3 横になって

仰向けになり、調べる側の乳房の下に枕かバスタオルを当て、腕は頭の下に。浴室でのときと同じ範囲を調べます。

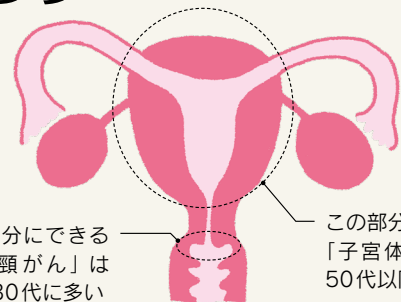


子宮頸がんをもっと知ろう

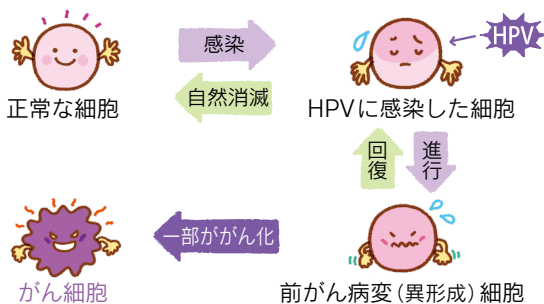
■ 子宮の入口にできる「子宮頸がん」は20～30代で急増中

子宮頸がんの発症の年齢はどんどん若年化していて、20代や30代で急増しています。年に約11,000人*が子宮頸がんと診断され、約2,700人が死亡しています。

※上皮内がんを含むと32,000人といわれています。



子宮頸がん細胞の発生メカニズム



HPV感染後、5～10年で、一部ががんへと進行する

■ ウイルス感染が主な原因です

子宮頸がんの主な原因は、HPV（ヒト・パピローマ・ウイルス）感染です。セックスによって感染し、性経験がある女性の約8割が一生に一度は感染するといわれるありふれたウイルスです。

HPVに感染しても大半は自然消滅しますが、ウイルスが残り（持続感染）、細胞が変化し（異形成）、子宮頸がんを発症することがあるのです。しかし、ウイルス感染からがん発症まで通常5～10年かかるため、その間に「子宮頸がん検診」で早期発見できれば、早期治療が可能です。